

解答

- 一　問一 イ 支障 □ 典型 ハ 繰〔リ〕 ニ 壓倒
 問二 A ア B エ C イ D オ E カ
 問三 自律的な自己規制力
- イ 日本社会に秩序があり、犯罪が少ない（から。）
 関係性（個人の自己は）他者や状況といった社会的文脈から切り離され、そうしたものへの影響を受けない独自な存在
- 二　問一 イ 企業 □ 恩 ハ 端 ニ 硬貨 ホ 財布
 問二 エ 点字で本を読むということ。
 問三 ウ 消えてしまいたい
 問四 エ A ねずみ B ひつじ
 問五 エ 扱事
 問六 エ 和菓子を陳列する目的
 問七 エ I 目が見えていた当時と同じ店の風景にして、店主が体を自由に動かせるようにする目的。

解説

- 一　問一 傍線部①の後に着目します。「恥ずかしい」とか「みつともない」という美意識が、法的に裁かれるかどうかに関係なく、自分を正しい行いに導く力になっていることから、「自律的な自己規制力」が抜き出せます。本文の前半で人の目を意識する心をもつことで、社会の秩序が保たれてきたことを説明し、中盤で、僕たち日本人は、だれかのためという思いがわりと大きいと述べていることから、選択肢エが選べます。
- 二　問一 傍線部①の前に「店主は、目が見えないので、」という記述があるので、点字で本を読んでいることがわかります。
- 問二 **D** の前後に着目します。「業者さんに頼んで処分しますよ。」という言葉を聞いてあせったことや、いざ消えるとなると、はげしく動搖してしまうことから、当てはまる表現として「消えてしまいたい」が抜き出せます。